

兵庫 庫 保 險 医 協 会

加古川 高砂 支部 ニュース

No. 247

2017年12月15日

発行

兵庫県保険医協会 加古川・高砂支部

(連絡先) 神戸市中央区海岸通一丁目三三

神戸フコク生命海岸通ビル五階

電話 〇七八(三九三)一八〇一

【第36回支部総会開催】

東播磨の高齢者救急医療から見えてくるもの

加古川・高砂支部は12月2日に、加古川商工会議所で第36回総会を開催。2016年度活動報告と、2017年度の方針を確認し、「身近に存在し役に立つ支部活動」を基本に、学術研究会や、審査・指導学習会、スタッフ研修会など、多彩な活動に取り組んでいくことを申し合わせた。

記念講演は、加古川中央市民病院救急科主任部長の切田学先生を講師に招き、「加古川中央市民病院における高齢者救急医療の現状と東播磨の救急現場の現状と課題」をテーマに行い、会員や看護師、自治体関係者ら51人が参加した。

切田先生は、昨年7月合併後の加古



加古川中央市民病院の救急医療のデータを紹介します切田学先生

川中央市民病院の救急車受入れ状況・救急科診療状況について「1年間で7千件に迫る、国内でも受け入れ件数が多い病院の一つになっている。半数が65歳以上で、高齢になるにつれて意識障害の主訴の割合が高く、80

歳以上の場合は約60%が入院してい

る。救急科初療の約50%が独居・高齢者夫婦・施設入所者である」と報告。

「65歳以上の病気では、肺炎や尿路感染症などの感染症が、外傷では大腿骨頸部骨折や胸腰椎圧迫骨折が多い。『もう少し』とせず、かかりつけ医を受診するか、あるいは早めに救急車要請をしてほしい」と呼びかけた。

また、すぐに死亡に至らせない医療技術の発展と、患者の自己決定権という考え方の普及により、DNA

Rという社会問題が発生し、救急医療スタッフ、家族、救急隊員が、三者三様の不満を抱えながら板挟みに



ドクターヘリ・ドクターカーの運用実績が紹介された

ドクターヘリ・ドクターカーの運用実績が紹介された

なっている点を指摘し「平時からLiving WillやDNR希望などを患者や家族ときちんと話し合っておくことが大切」と解説した。参加者からの「開業医からドクターカーを要請してもよい症例はどういうものか?」との質問に「病院で判断するので、気にせず、すぐに連絡をしてほしい」と答えた。懇親会では、切田先生を囲んで、東播磨地域の救急医療や多職種連携について意見交流を行った。

(活動報告・方針は②面掲載)



懇親会では地域医療について交流を深めた

【健康と医療について語り合う会 出前講座】

家族と自分の健康管理のために

まずは食習慣の改善を

加古川・高砂支部は11月19日に、加古川市総合福祉会館で、健康と医療について語り合う会出前講座を開催した。同講座は、聴覚障害者らが医療や健康についての情報を学ぼうと定期的に開催する「聴覚障害者の医療を考える会(いのちを考える会)」の講師派遣要請に応じているもの。今回は「健康診断結果の見方について」特定健診を中心に、テーマに、高砂市・三木医院院長の三木健史先生が講演した。参加者の感想を紹介する。

今回初めて健康と医療について語り合う会「いのちの会」に参加させていただきました。今回の講演は「健康診断の見かた」について、テーマ別でもとても解りやすく説明していただきました。

「メタボリックシンドローム」については、詳しい検査の内容や診断基準があることを教えていただき、自分でも毎年注意してみるようにすれば、予備軍にならないように気をつけることができると思いました。

「特定健診の項目説明」については、BMI、尿検査、血圧、血液の検査などからわかる数値の見方を教えていただきました。若い頃は気にしていなかった食事や運動がとても重要だと感じました。塩分や糖分、アルコールを控えたり、野菜を多く摂るといった基本的なことがなかなかできずにいるので、今回見つけ直すことができました。

「ABC検診」については、ピロリ菌

の検査だそう初めて聞く言葉でした。胃がんの危険度がわかるとのことでしたので、次回必ず受けてみようと思います。最後の質疑応答では、普段なかなか聞くことのできない質問に一つ一つ丁寧にご説明いただき、とても解りやすかったです。今回の講演に参加させていただいたことで、家族の健康、自分の健康のために、まずは食習慣の改善に取り組んでいこうと思いました。今回はこのような機会を作っていただき、貴重なお話を、本当にありがとうございました。

加古郡・青木純子(手話サークルはりま)



健診数値の見方について丁寧に解説する三木先生

①面からつき

【2016年度活動報告】

1、第35回支部総会(2016年12月3日)は、「認知症の方を精神病院入院からまもる緩和医療『コウノメソッド』について」をテーマに、はやしやまクリニク希望の院長長梁 勝則先生を講師に迎え、医師・歯科医師・看護師・スタッフら70人が参加した。

2、移動理事会(2017年2月4日)、地域医療部と共催で地域医療を考える懇談会(2017年2月5日)を開催し、「地域包括ケアと多職種連携」在宅での終末期を支える取り組みから」をテーマに、西村医院院長 西村正二先生(加古川市)・三木医院院長 三木健史先生(高砂市)・社会福祉士 坂本 明氏(加古川市)から話題提供いただき、医師・歯科医師、介護士やケアマネージャーだけでなく、在宅医療に携わる様々な職種を含む68人が参加した。

3、医療安全管理研修会「外来における感染防止対策」(2017年6月10日)を開催。加古川中央市民病院 医療安全管理部 院内感染対策副室長 感染管理認定看護師の竹内久枝氏を講師に迎え、医師・歯科医師・看護師・スタッフら41人が参加した。

4、在宅医療研究会「褥瘡・下肢難治性潰瘍治療の最新情報」在宅医療でできること、病院でできること」を

(2017年9月30日)開催。加古川中央市民病院 形成外科 主任医長 岩谷博篤先生、同病院皮膚・排泄ケア認定看護師の丸山澄美氏・橋本円氏を講師に迎え、医師・看護師ら58人が参加した。

5、聴覚障害者の医療を考える会(いのちの会)から、健康と医療について語り合う会の講師派遣依頼があり、「健康診断結果の見方について」特定健診を中心に」をテーマに、三木医院院長 三木健史先生(高砂市)を講師派遣し46人が参加した。

6、未入会員対策として、支部役員に紹介状の協力要請を行った。2017年8月に、役員同行ではりま病院を訪問し、院長面談を行い院内の勤務医対策の協力要請を行った。また、加古川中央市民病院、県立加古川医療センターを重点に勤務医対策を行いながら、会員病院訪問も行うなど組織拡大に取り組んだ。

7、支部ニュースの定期発行に努めたが、会員投稿を募るなど一層の紙面の工夫が必要である。

8、支部活動の基本である幹事会を開催し、活動の推進と活性化に努力した。しかし、幹事の出席者数などでは改善の余地があり、引き続き努力していきたい。

【2017年度活動方針】

1、会員の要望をもとに、学術研究会や気候に参加できる会員懇談会などを積極的に行う。また、在宅医療への取り組みや、医科歯科共通の研究会などを開催する。

2、保険請求や審査、指導、監査に関する情報交流や医院経営問題など、協会ならではの活動にいつそう力を注ぐ。

3、「接遇研修」「医療安全管理対策」に関する研究会や講習会など、スタッフも含めた企画を引き続き開催する。

4、未入会員対策として、新規開業医とともに勤務医対策にも引き続き力をそそぐ。

5、加印社会保険推進協議会は、会長を引き受けている団体として活動への取り組みを一層努力する。特に医療制度問題では積極的な協力・共同をはかるとともに、「健康と医療について語り合う会」などを通じ、他団体との交流を強める。

6、日常診療に役立つ情報、地域の情報提供、さらには「会員紹介」などを企画し、会員相互のコミュニケーションを培う支部ニュース作りをめざす。

7、支部活動の基礎となる幹事会の充実のため、出席者の確保をふくめ改善をめざす。そのために会員の積極的な参加を促す。



聴覚障害者とその家族を中心に48人が参加